



令和6年1月18日発行  
 第15号  
 岡山市教育委員会  
 生涯学習課公民館振興室  
 (岡山市北区幸町 10-16、  
 TEL (086) 234-6015)  
 公民館振興室 HP 

# 学校×地域×公民館 「たかしま防災クエスト大作戦」 とにかく楽しい防災活動を

**高島公民館**

## 楽しみながら防災を学ぶ

高島公民館では、令和5年10月27日に「たかしま防災クエスト大作戦」を開催しました。この講座は、「子どもたちへの防災教育に興味や関心がある人を募集」という公民館の呼びかけに応じてくれた地域の防災士などがTKB（高島旭竜防災教育グループ）を結成し、企画実施したものです。テーマは、「楽しみながら防災を学ぶ」です。

## 防災ミッションにチャレンジ！

この「防災クエスト大作戦」は、参加した子どもたちが、逃げ出したBOUSAI モンスターを捕まえるために8つの防災ミッションに挑戦するというもの。そこで集めたコインで道具カードを買い、その道具を使って「水害モンスター」や「地震モンスター」と対戦するというストーリー仕立ての講座です。



地震モンスターと対決している様子

防災ミッションは、中高校生ボランティア「高島地域づくり隊」、東岡山工業高等学校、岡山理科大学、岡山市中消防署などがブースを担当し、宝探しやすごろく、間違い探しゲームなど、趣向を凝らした内容となりました。ブースの中で仲間を助けるなどの積極的動きをすると



中高校生ブースの様子

ボーナスコインがもらえるので、子どもたちは熱心にチャレンジしていました。参加した小学生からは、「防災の勉強を楽しみながらできるなんてすごい」、「知っている中学生が防災を教えてくれた。すごいと思った」、「地震を体験してすごくゆれることがわかった。現実におきても、一度経験したから経験していない人よりちゃんと逃げることができる自信がある」などの感想が寄せられました。



岡山理科大学の防災すごろくの様子

## 学校の授業との連携

この講座は、学校の授業と連動し、学校の授業内容を深化するための実践編という位置付けです。小学4年生が社会の授業で「自然災害から人々を守る活動」を学んでいる時期に合わせて実施しました。

事前に学校と相談し、授業の導入部分で使ってもらう動画教材もTKBで作成しました。学校で学んだことを公民館講座で実践し、さらに学校の授業で振り返り、参加していない子どもにも普及させるというサイクルを意識したものです。

「災害は忘れた頃にやってくる」とよく言われるように、いつ何時起こるとも分からないのが災害です。その時、子どもたちが自分の命は自分で守れるように、学校・地域と連携しながら地域密着型防災教育活動をTKBのメンバーと今後も進めていく予定です。

※「れんめんめん」の由来…「連綿」と途切れることなく、「面」のように広がりをもちながら、人々の営みが将来へとつながり未来を拓いていくことができるように、という願いを込めています。

※QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。

## 【若者の地域参画】

## 大学生が地域の橋渡し役に

旭公民館  
「旭企画」

## 大学生が講座の企画から参加

旭公民館は、令和7年度に学区の真ん中に位置する岡山中央中学校の敷地内へ新築移転が決まっており、学区全体から新しい利用者の増加が期待されています。また、来館者の多くが高齢者であることから、児童生徒を含めた若者の参画も待ち望まれています。

この課題を克服していくため、大学生が地域のよさを生かした講座を企画・運営することによって、地域の幅広い年代層の人々を繋ぐ橋渡し役となってくれることを期待して、令和4年10月に「旭企画」スタッフを募集しました。その結果、ノートルダム清心女子大学の学生5名から応募があり、令和5年度の講座実施に向けてスタートしました。

## 旭企画会議～地域のよさを生かした企画に～

企画会議では、地域のよさを生かした講座内容を考えました。古くには岡山藩の城下町が広がっていたこと、岡山城や後樂園をはじめ、美術館、博物館、図書館など文化施設が豊富にあることから「歴史のまち歩き」が効果的であるということで意見が一致しました。講座内容から、地元の歴史に詳しい方にアドバイザーをしていただき、企画会議を重ねるうちに、この地域の歴史を学ぶ上で岡山藩の城下町は欠かせないこと、令和4年11月に岡山城がリニューアルしたばかりであることなどから、講座名を『今日から君も岡山歴史王!!』と名付けました。第1弾の「岡山城を知り尽くす!」を6月に、第2弾を2回に分けて「城下町岡山さんぽ!」のPart1を10月に実施、Part2は3月17日に開催予定です。企画会議では、行程、説明の内容などに加えて、ゲームやクイズの内容について検討を重ね、現地に出向いての下見も講座ごとに複数回行い、改善しています。



天守閣前での振り返りO×クイズ

## 『今日から君も岡山歴史王!!』

## 第1弾 ～岡山城を知り尽くす!～

親子での参加も多く、「私は誰でしょうクイズ」で顔合わせの交流を図った後、石垣、本丸、

天守閣を4名の大学生スタッフが分担し、それぞれの場所でクイズや説明を交えて城内を回りました。宇喜多秀家、小早川秀秋、池田光政と藩主が変わるたびに継ぎ足されていった石垣の継ぎ目を探したり、石に刻まれた刻印を見つけ合うなど、参加者はゲーム感覚で興味深そうに参加していました。

## 第2弾 Part1 ～城下町岡山さんぽ!～

岡山城を囲む城下町跡を、当時の地図を手に「岡山歴史のまちしるべ」などの碑の説明を中心に、各地でクイズやゲームを



紙飛行機を飛ばす参加者

しながら回りました。本学区には学校の発祥地も多く、参加者は学校のルーツに関心を示していました。盲啞学校跡では障害者スポーツの一つであるボッチャを競ったり、中山下公園では鳥人幸吉にちなんで各自が作った紙飛行機を一行に並んで飛ばし、飛距離を争ったりして楽しみました。子どもたちからは「疲れたけどすごく楽しかった」という声が返ってきました。

## 今後に向けて

大学生スタッフは、この事業の目的を達成しようと積極的に活動しており、参加した大人や家族の間に入って会話をしたり、グループに分かれての活動を意図的に取り入れたり、交流のきっかけづくりをしている場面が随所で見られました。大学生スタッフからは「学校では積めない貴重な経験ができて」「大人も子どもも楽しめるゲームになるようもっと工夫を凝らさなくては」「できるだけ親子で参加しやすい設定を考えたい」など、人と人との繋ぎ役として、さらにより事業にしていきたいという意欲的な発言が寄せられています。

公民館としても、この旭企画はもちろん、今年の秋に発足したばかりの中学・高校生のボランティアグループ「岡山 Central クルー」を本格的に稼働させていくなど、さらに若者参画に力を注いでいきたいと考えています。

# 外国人も日本人も安心して暮らせる地域をめざして 言葉や文化の違いを超えて交流作戦 展開中！

**万富公民館**

東区瀬戸町には 477 人の外国人市民が居住しており（令和 5 年 10 月末現在）、万富公民館が立地する千種小学校区にも、ベトナムやネパールからの技能実習生が勤務する会社があります。元々、千種学区は地域防災の取り組みに熱心ですが、「誰もが安心して暮らせる地域」をめざしており、公民館では地域の防災力を高めていく際に外国人市民の視点も反映していく必要があると考え、多文化共生の取り組みをスタートしました。

令和 4 年度には、まず地域住民を対象に



「やさしい日本語」講座の様子

『やさしい日本語』講座を実施しました。IPU・環太平洋大学の太田真紀子先生とベトナム人留学生を招き、「やさしい日本語」とは何かを学びました。「1文を短くして簡単にする」「カタカナ・外来語はなるべく使わない」「あいまいな表現を避ける」など、学んだ「やさしい日本語」を使って留学生と会話しました。参加者は、日本語が伝わった時の喜びを実感し、ベトナム人を身近に感じる機

会となりました。

令和 5 年 10 月には、「ベトナム料理講座」を開催。大平先生からベトナムの地理や文化を学んだ後、留学生の指導で料理を 3 品作りました。メニューは、揚げ春巻き、野菜たっぷりお米麺豚肉焼き、チュー（小豆やココナッツミルクを使ったデザート）。言語と文化が違う間柄での調理実習に皆さん四苦八苦していましたが、お互いの「伝えたい」「理解したい」という思いを寄せ合い、楽しく料理をすることができました。参加者から「我が家では味わったことがないメニュー」「また交流の場を設けてほしい」という感想があり、次回は外国人の方たちに日本文化を体験してもらおうと計画中です。



「ベトナム料理講座」の様子

国籍やルーツにかかわらず、誰もが安心して暮らせるよう、これからもお互いの文化を知り、交流を図っていきたいと考えています。

## 「生き物の保全」シリーズ④ 山南公民館

### 「セトウチサンショウウオ」 生息地の保全活動

セトウチサンショウウオは、全長 10 cm 前後の両生類です。主に農耕地や水辺周辺の雑木林に生息しており、環境省のレッドリストでは、絶滅危惧 2 類に分類されています。以前はカスミサンショウウオと呼ばれていましたが、令和元年に形態や遺伝子解析などに基づき、岡山県に分布するものはセトウチサンショウウオに分類されました。イトミミズや小昆虫を餌としています。

山南公民館では、町内会長や市民団体代表ら 21 名で構成されている「山南ホテルの里協議会」の会員とともに



セトウチサンショウウオ

にセトウチサンショウウオに関する啓発活動や清掃活動、観察などを主催事業として行っています。令和 5 年 5 月に幼生の観察、11 月に生息地周辺の草刈りと溝掃除を行い、令和 6 年 2 月には成体と卵の観察会を予定しています。



清掃活動の様子

義務教育学校「山南学園」の生徒や先生方も総合的学習の一環として、観察や清掃活動に地域の皆さんとともに、参加しています。特に清掃活動では、木の枝や枯れ葉の除去、溝の土あげなど、生徒の皆さんの活躍で作業がてきぱきとすすみました。

近年、産卵場所となる浅い水辺がなくなり、生息場所が激減しています。今後も「山南ホテルの里協議会」と協力しながら、個体数が増えることをめざして活動を続けていきます。

# 子どもたちとボランティアの交流すすむ 夏休みの「宿題教室」 in 操山公民館

操山公民館では「地域未来塾」として、長期休業中に「宿題教室」を行っています。「地域未来塾」は、地域住民や大学生ボランティア等の協力を得て、小中学生の学習を支援し、子どもたちの居場所づくりや、地域の方と子どもがつながる場となることを目的としています。

7月～8月の間の3日間、各日2時間実施しました。小学校3年生から中学校3年生までを対象として行い、参加した児童生徒はのべ91名、ボランティアは大人16名、大学生10名、中学生23名で、総勢140名と一緒に宿題に取り組みました。

50分間の学習時間を2回、間の休憩時間には大人ボランティアによる「読み聞かせ」、大学生ボランティアを中心に「ピアノ・パーカッションによる演奏会」、



宿題に取り組んでいる様子

館長による「おもしろ実験」を行いました。どれもたいへん盛り上がり好評でした。また、休憩室（別室）に中学生ボランティアが企画・運営するゲームコーナーを設けました。ボードゲームや日本地図のパズルをとおして、対話がはずみ、なごやかな雰囲気の中に交流がすすみました。

ボランティアの振り返りでは、「ありがとうと言われてうれしかった」「休憩室がよい交流の場となっていた」などの感想がありました。

また、中学3年生の生徒が受験に向け不安があることを話し、大学生がどうやってその時期を過ごしてきたかを話す場面があり、ボランティア同士も交流する大切な時間となりました。

次回は春休みに実施予定で準備をすすめています。



大学生による演奏会

## シリーズ地域の宝や魅力を未来へつなごう④

## 足守公民館

### 面づくりに魅せられて ～神楽面クラブ～

備中神楽と言えば高梁市や井原市を思い浮かべる人が多いでしょうが、備中国の一部であった足守にも、神楽太夫（神楽を演じる人）が何人もおられたそうです。その一人である小林弘照先生（故人）が、神楽面の製作を高梁の春山流（しゅんざんりゅう）で学び講師となりました。昭和61年に足守公民館の神楽面講座が始まりました。クラブ講座として30年以上継続しています。開講当時は20人以上の講座生がおり、



講師（写真中央）の話に聞き入る受講生

その中から上達した方が講師となって高松公民館、一宮公民館でも講座が始まりました。

参加歴28年という方から今年度より始めたという方まで、現在9名が月2回活動しています。「昔から神楽が

好きで見に行きよるうちに、（面を）彫らにゃおえんと思うて」と言われる方、お姑さんがクラブに参加されていて、その時の作品を手本に同じ鬼の面を制作中の方、40代の頃に1年間没頭した面彫りを15年のブランクを経て再び始められた方、彫っていたら気持ちが穏やかになるという方、彫った作品を海外にいる親戚に送ったら喜ばれるという方など。

かつては、足守地域でも神社の祭りの際に神楽が舞われていました。公民館では、今後こうした地域に伝わる郷土芸能を知るような講座を計画していきたいと考えています。



「手力男命」（たじからおのみこと）の面彫りに集中している受講生

※備中神楽とは…昭和54年に国の重要無形民俗文化財に指定された岡山県の郷土芸能。備中地方に伝わる。荒神様（産土神）を招き五穀豊穰、家内安全を祈り演じる神事。